

疾患モデル科学

1. 教育目標

昨今のめざましい医療技術の進歩には、医療関係者や研究者の絶え間ない努力と共に、前臨床研究やトランスレーショナル研究に代表される動物実験が直接・間接的に寄与していることは言うまでもない。最近、国際的情勢に鑑み、「動物の愛護及び管理に関する法律(令和元年改正)」、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準(環境省平成 25 年改正)」、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針(文部科学省)」や「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針」が整備されてきた。本学においても法律等を遵守し動物実験が適切に行われるよう、学長の責任のもと、藤田医科大学動物実験規程が施行されている。そこで、本講座は動物実験を実施する大学院医学研究科の大学院生として必要なことを学び、基本的な手技を習得することを目標とする。

2. 担当者

長尾 静子 教授	釘田 雅則 講師	白水 貴大 助教
永井 拓 教授	熊本 海生航 講師	張 心健 助教
吉村 文 准教授		

3. 講義開催日

種別	No.	第1回	第2回	開催場所	時間
選択式セミナー	1	5月 8日 (水)	6月 17日 (月)	遠隔授業	18:00
	2	5月 10日 (金)	6月 19日 (水)		
	3	5月 14日 (火)	6月 21日 (金)		
	4	5月 16日 (木)	6月 24日 (月)	大学3号館 実習室	21:00
	5	5月 20日 (月)	6月 26日 (水)		
	6	5月 22日 (水)	7月 4日 (木)		
	7	5月 24日 (金)	7月 9日 (火)		

4. 評価方法

学生便覧卷末綴じ込み「疾患モデル科学セミナー出席確認票」にて、受講時に担当教員の認定印が必要。出席を原則とするが、レポート提出も行う。

5. 講義内容 (第1回:5月・第2回:6、7月共通)

No.	講義テーマ	到達目標
1	動物実験等および実験動物の取扱いに関する事項、実験動物の飼養保管に関する事項	動物実験と実験動物の概念を説明できる。 実験動物の取扱いに関する基礎知識を得る。 科学的信頼が高い動物実験を行うために必要な実験動物の飼養保管に関する基礎知識を得る。
2	動物愛護管理法等の関連法令、条例、指針等および規程等に関する事項	関連法令等を理解し遵守する心を養う。
3	安全確保に関する事項、動物実験計画の立案の仕方、施設等の利用に関する事項、最近のトピックス	危険因子の把握と適切な取り扱い方法を学ぶ。 緊急時の対応を学ぶ。生活環境の保全方法を学ぶ。 動物実験計画の立案ができる。施設等の利用方法を学ぶ。実験動物あるいは動物実験の最近のトピックスに关心を持つ。
4	実験動物の取扱い	実験動物の取扱いを習得する。 ハンドリング、投与(経口、腹腔内、皮下、尾静脈)
5	実験動物の取扱い	実験動物の取扱いを習得する。 吸入麻酔、CT撮影(頭部、胸部、腹部、造影)、 in vivo 発光・蛍光イメージングシステム Lago X 撮影
6	実験動物の取扱い	実験動物の取扱いを習得する。 臨床生化学検査(血糖値測定、採尿方法)、臨床生理学検査(血圧測定)、擬似皮膚を用いた縫合練習、ドリームボックス装置使用方法
7	実験動物の取扱い	実験動物の取扱いを習得する。 ・繁殖生理(膣垢標本、インピーダンス) ・臓器観察、還流固定、麻酔と手術(選択)

6. 履修上の注意点

※動物実験を行う可能性がある方や関心のある方は、是非本講義を受講ください。
※動物実験を行う場合、No.1～No.3の講義とNo.4の実習を必須とします。(必要に応じて補講を行いますので、相談ください。ただし、補講の場合ポイントは加算されません)。

※No.5～No.7は実践に役立つ手技の習得を目的としています。

※第1回(5、6月)・第2回(6、7月)合わせて受講可能です。ただし内容(講義テーマ

No.1～No.3)の重複は不可です。手技(No.4～No.7)の習得のための重複については、ご相談ください。